VOICEよこはま

民衆の声 ボイス 公明党 横浜市会ニュース 2014－2015 都筑版

公明党横浜市会議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL.671-3023 FAX.681-2060 http://www.saito-shinji.jp

「待機児童ゼロ」の切り札

公明党市議団の提案で実現！

保育コンシェルジュ制度 さらに整備・充実へ！

公明党が提案し、横浜市の「保育所待機児童ゼロ」達成の切り札となった「保育コンシェルジュ」制度。一段の整備・充実に向けて挑戦が続いています。

平成26年10月市議会でも公明党はさらなる予算確保など具体的な政策を提案しました。

市長の背中を押す

さかのぼれば、平成25年5月の本会議において、都筑区選出の斉藤しんじ議員が、「待機児童ゼロの実現に非常に効果があった保育コンシェルジュは今後も継続・拡充させるべき」と訴えました。

林横浜市長は、「保育コンシェルジュは保護者に寄り添ったきめ細かな対応をすることによって、待機児童ゼロの実現に大きな役割を果たした」と大きく評価。3年間限定の事業ではなく、今後も継続していくとの答弁を引き出しました。

待機児童ゼロが実現

横浜市は平成22年に全国で最多の1522人もの待機児童数を抱えていました。この問題を解決するため、公明党は保育所の定員増加や、延長・休日保育の拡充など、保育施設の整備に取り組んできました。

同時に、市民一人一人のニーズに丁寧に対応できる「保育コンシェルジュ」制度を提案。実現に向けて全力で推進してきました。

保育コンシェルジュとは、区役所に常駐する専門の相談員が保育に関する相談や情報提供、アフターフォローなどを通じて、保護者と保育サービスを橋渡しする制度です。

市内全区に配置され、平成23年に制度が開始してから、多様な保育サービスができたなどの声が寄せられ、好評を博しています。導入後から待機児童数も減少し、2年間でゼロを達成することができました。

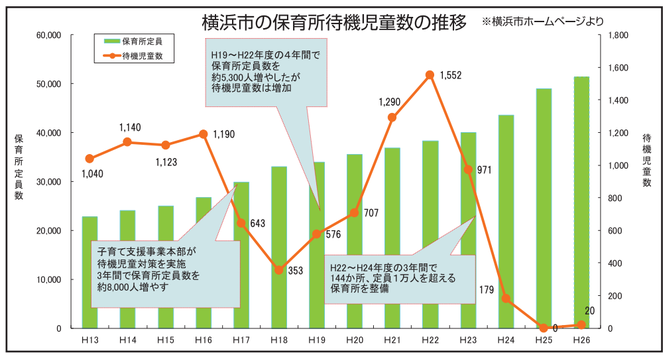
日本中から注目が！

こうした実績から、さいたま市、福岡市などでも同様の制度が導入されるなど、子育て支援のモデルケースとして評価され、全国的に注目を集めています。

「保育コンシェルジュ」継続を本会議で提案する斉藤しんじ市会議員

コンシェルジュとは？

フランス語で、ホテルの宿泊客のさまざまな要望に応える「総合世話係」の意味。
今日では、お客様目線のきめ細やかなサービスの代名詞として使われています。



2000の市民相談から100超の実績！

●主な実績

子育て支援・教育の充実
1.保育コンシェルジュを全区（18区）に配置
2.小児医療費助成制度の拡充
3.市立小中学校普通教室・特別教室のエアコン整備
4.児童支援専任教諭の全校配置
5.通塾の学割を実現

防災・減災対策の拡充・強化
1.路面下の空洞化調査を実施
2.学校の耐震補強
3.橋、歩道橋、港湾施設の地震対策
4.市立小学校の児童へ携帯型ヘルメットの給付
5.水害のハザードマップ作成
6.防災教育の推進

くらしの安心・安全
1.犯罪被害者相談窓口の設置
2.LED防犯灯設置
3.「横浜市市民協働条例」の制定
4.カーブミラーの設置
5.照明灯の設置
6.バス停ベンチの設置
7.道路の安全対策（一時停止設置、飛び出し防止等）

高齢社会に備える
1.特別養護老人ホームの整備
2.民間住宅あんしん入居事業を拡充
3.あんしん電話の利用拡大

健康社会の構築
1.みなと赤十字病院アレルギーセンターの充実
2.各種ワクチンの定期接種補助を推進
3.働き盛り世代の無料がん検診を拡充

100超の実績 詳しくはWebで！

確かな実績 未来（あす）も全力！

●主な政策

活力ある地域づくり
1.保育コンシェルジュを充実し保育所待機児童ゼロを継続
2.女性・若者を対象にインターンシップを柱とする就労支援を実施
3.小児医療費助成制度のさらなる充実
4.中学校で栄養バランスのとれた温もりのある横浜型スクールランチを実現

魅力ある地域づくり
1.コミュニティバスなど地域の公共交通を維持充実
2.中小企業支援コンシェルジュ機能を強化し、資金繰り支援などを充実
3.燃料電池自動車等次世代自動車の普及を推進
4.自転車が安全に走行できる環境を整備
5.イヌネコ殺処分ゼロを推進

安心な地域づくり
1.まちの不燃化、延焼遮断帯の形成など、地震火災対策を強化
2.緊急輸送路や耐震強化岸壁の整備、上下水道管等の耐震化などを推進
3.がけ地・急傾斜地の防災対策を推進
4.「危険ドラッグ」対策を強化
5.空き家の利活用、除却を促す法整備や総合的な対策を推進

支え合う地域づくり
1.高齢者が自宅で24時間介護、医療サービスがうけられる地域包括ケアシステムを推進
2.認知症の方の生活を支援
3.社会的に孤立している人を支援するワンストップの総合相談窓口を設置
4.障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための拠点を整備

斉藤 しんじ プロフィール

生年月日：1956年（昭和31年）8月1日生まれ
血液型：A型
出身地：福井県
尊敬する人物：松下幸之助
好きな食べ物：魚介類
趣味：読書
家族：妻と一男三女

●1981年（昭和56年）金沢大学大学院修了
●松下電器産業株式会社（現:パナソニック）入社
通信機器の世界標準の策定に活躍する。
●2007年（平成19年）横浜市議会議員選挙に初当選
●2011年（平成23年）2期目当選
●現在、公明党横浜第2総支部長、都筑支部長
公明党横浜市会議員団 政務調査会副会長
●経済・港湾委員会委員
●孤立を防ぐ地域づくり特別委員会委員長

ホームページをご覧ください。
斉藤しんじ 検索
携帯はこちら

4人の子育てや母の介護を通しての経験が私の政策の原点です。

「待機児童ゼロ」へ執念の戦い！――斉藤しんじ議員に聞く

「保育コンシェルジュ」創設に全力投球

結党50周年を迎えた公明党。横浜市会の政策立案をリードする斉藤しんじ議員に聞きました。（編集部）

―日本中を「あっ」といわせた横浜市の「待機児童ゼロ」達成。斉藤しんじ議員と公明党の提案で実現しましたね。

斉藤　私も4人の子育てで大変苦労しました。幼稚園入園時には、1週間並ばないと申し込みができないような状況でした。探し回って、いわゆるプレ保育になんとか補欠で入園させることができましたが、保育サービスの充実が切実な問題であると実感しました。

―その経験から生まれたアイデアが「保育コンシェルジュ」ですね。

斉藤　公明党市会「待機児童ゼロ」実現の政策チーム責任者として、具体的な政策を練り上げました。その中で「コンシェルジュ」という名前のアイデアも生まれました。新しいことには消極的な行政や時代遅れの規制などの力べを一つひとつ乗り越えました。公明党市議団の働きかけが林市長の背中を押し、実を結んだと思います。

―都筑区内でも斉藤しんじ議員が直接携わった実績がありますね。

斉藤　市営地下鉄の高架下に保育所を設置する提案をし、平成25年、区内にもオープンしました。こうした取り組みによって、都筑区内の待機児童数はこの3年で58人減り、ゼロを維持。保育所の数も3年間で10軒増えました。しかしまだ課題も数多くあります。これからが本当の戦いです。

女性や子供が輝く社会は国と地域を元気にし、全ての世代にその活気が波及します。子育て支援の拡充は、超高齢化社会に対応する大切な柱だと思います。

保育コンシェルジュに喜びの声

都筑区内在住
曽根原久美子さん

次男の保育園探しがうまくいかず悩んでいました。すると保育コンシェルジュの方から電話がきて、丁寧に話を聞いてくれ、数軒の保育園を紹介してくれました。おかげで自宅から近い保育園に入園することができ、仕事復帰を果たすことができました。制度創設を推進した斉藤しんじ議員と公明党に心から感謝しています。

待ったなしの超高齢化社会

地域包括ケアシステムの実現を！

―次の柱として考えている政策を聞かせてください。

斉藤　聞きなれないと思いますが「地域包括ケアシステム」を都筑区にモデルケースとして是非導入したいと思います。

―それはどのような制度ですか。

斉藤　自宅で24時間、介護サービスに加えて医療サービスも受けられるシステムを核として、介護が必要な高齢者が住み慣れた町で安心して暮らし続けていける仕組みです。公明党が主導して推進しています。（図を参照）

―具体的にはどのような点が優れているのでしょうか

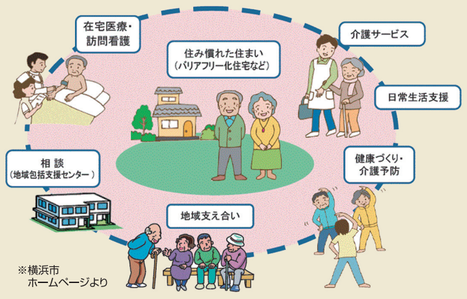
斉藤　実現すれば、地域ケアプラザなどを拠点に、訪問による自宅介護とともに、医師や看護師による〝訪問医療〟も加えた総合的な支援ができるようになります。既に横浜の一部地域では、24時間訪問医療専門のクリニックが活動を始めています。

―超高齢化社会には不可欠な制度といえますね。

斉藤　介護をされるご家族を取り巻く状況は大変なものがあります。私も認知症の母の介護を通して、こうした現実を肌で実感しました。

国民の60％以上が自宅で人生の最終期を迎えたいとの調査結果も出ています。こうした思いに応えるのが政治の役割だと思います。

実現には、医療、介護にかかわる規制の緩和など国政レベルの政策転換が必要です。3000人の地方議員と国政が連携する「ネットワーク政党・公明党」として、全力で推進していきたいと思います。



地域包括ケアシステムイメージ

現場第一主義に徹する！

市民相談2000件100を超える実績

―斉藤議員は「現場第一主義」をモットーに掲げていますが、3.11東日本震災直後には都筑区内を総点検に走ったそうですね。

斉藤　区内でも大震災の被害が多くのところで発生しました。一刻も早く正確・適切な対応を取るために、100軒以上のお宅を訪問させて頂きました。池辺町では地割れが発生したとの連絡を受け、すぐさま現地へ直行。その場で土木事務所に連絡を取り、具体的な対策を講じることができました。今後も震災の教訓を活かした防災対策にしっかり取り組んでいきたいと思います。

―市民相談も、実現したものが100件を越えるそうですね。

斉藤　初当選以来、相談件数は2000件を超えました。行政に提出した要望書は140通以上になり、そのなかで実現したものも113件（平成26年10月現在）となりました。カーブミラーの設置から公園の雨水はけ対策など、区民の皆様に身近な場所の改善に繋がっていると思います。

すべて支持者の皆様のご支援のおかげです。改めて心より感謝申し上げます。

―「現場第一主義」の原点は、技術者として働いていた時の経験にあると聞きました。

斉藤　以前は通信機器メーカーの技術者としてモノづくりに携わっていました。そこでは何よりも現場が最重要でした。製品の不具合発生時には、原因究明のためにイギリスまで現物を確認に行ったこともあります。

こうした経験が、今も生きています。これからも、「現場第一」で皆様の声をカタチにし、安心・安全の社会を作るため全力で励んでまいります。

―ますますの活躍に期待しています。

斉藤　ありがとうございます。全力で頑張って参ります。